

| 分類 | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 寸評 |
|---------------|-----------------------------|----------------|------------------|--|
| 数字リテラシー | 社会調査のウソ | 谷岡 一郎 | 文春新書 | 「調査をもとにしたデータ」は人によって意図的かつ簡単に偽造できる、という話。データを鵜呑みにしてはいけないことや、社会調査を行う際の心構えを学ぶことができる。信頼のおけるデータを作るために、また調査結果が正確なものかどうかを見極めるためには必読の一冊。 |
| | データはウソをつく | 谷岡 一郎 | ちくまプリマー文庫 | こちらもデータの正確性を取り上げた本。統計について詳しい人でなくても理解できるように、よくあるデータの誤読について解説されている。Web広告の配信成果が出たときにそのデータを誤読しないためにも、特に広告運用担当者は読んでおくべき一冊。「世の中、半分以上のデータはゴミのようなもの」という筆者の主張が強烈な印象を残す。 |
| | ツキの法則 | 谷岡 一郎 | PHP新書 | サンプルを題材に確率について語る本。数式やグラフは出てこず、文字を読むだけでひと通り理解できるようになっている。確率について理解しておかないとデータの分析時などに判断に迷うことが出てくるので、仕事で数字を扱う人は読んでおくとよいだろう。 |
| | 人でなしの経済学 | ハロッド・ウィン聖一 | バジリコ | 分析の極意は"比較対象を決めること"と、"比較する指標を決めること"。また、広告運用における分析のポイントは"どの費用とどの便益を比べるのか"という比較対象を選び出すセンス"。この本は「トレードオフ」という経済学における一般的な考え方を、具体例を示してわかりやすく解説している。いろんなものを比べてみて、トレードオフの天秤に乗っけてみれば、今まで見てこなかった新しい気づきがあることだろう。 |
| | 不透明な時代を見抜く 『統計思考力』 | 神永 正博 | ディスカヴァー・トゥエンティワン | 統計の思考を「べき条則」に触れつつ解説した本。世の中にある分布は正規分布だけじゃないということを知りやすくて示している。リスティング広告においても、検索クエリとインプレッション数の関係など「べき条則」が関わっている。 |
| | ヤバイ経済学 | スティーヴン D・レヴィット | 東洋経済新報社 | 経済や統計で、世の中の事象をおもしろく読みとく本。大事なのは内容ではなく、立てた仮説に対してどうやって分析し、その数字を使ってどうやって説得するのか、という一連の分析・報告業務のプロセスを学ぶこと。内容よりも、この一連のプロセスを学ぶべし。 |
| ドキュメンテーション | 論文の教室 | 戸田山 和久 | NHKブックス | 大学生1年生向けにレポートを書く際の作法を説いた本で、ドキュメンテーションの基礎を押さえた入門書。大学1年生、つまり高校生向けの書籍だからといってナメてはいけない。著者が科学哲学者であることもあり、特に論理・推論・論証については非常にわかりやすく実践的な内容になっている。学歴に関係なく一度よんでおくべし！ |
| | マッキンゼー流 図解の技術 | ジン ゼラズニ | 東洋経済新報社 | 定量チャートや定性チャートの作成方法を解説した本。情報は、文章だけでなくチャートや図解を上手に利用することでより伝わりやすくなる場合がある。ワークブックも出版されているため、併用することで実践的に学習できる。 |
| | ウォールストリートジャーナル式 図解表現の技術 | ドナウォン | かんき出版 | グラフや表組みの作り方について、ひとつの線の引き方から図の使い方で丁寧に教えてくれる良書。グラフ・表を分かりやすくするコツに加えて、色の使い方にまで言及している。前述の「マッキンゼー流図解の技術」の足りない部分をうまく補完してくれる書籍のため、あわせて読むことを推奨する。 |
| | 外資系コンサルのスライド作成術 | 山口周 | 東洋経済新報社 | パワーポイントで資料を作成する人にはぜひ読んでほしい一冊。全体の構成から個々の論点まで、すべてを網羅しつつ丁寧に解説されている。特に紙に印刷する想定資料作成については、この一冊で最低限必要なスキルがひととおり身につく。 |
| プレゼンテーション | マッキンゼー流 プレゼンテーションの技術 | ジン・ゼラズニー | 東洋経済新報社 | プレゼンテーションについて、時間配分から話し方、心構えまで体系的に述べられている本。プレゼンテーションというのは単なる資料の説明ではなく、「こちらが期待した動きを相手にしてもらうこと」だけというところがよくわかる。 |
| | わかりやすく伝える技術 | 池上彰 | 講談社現代新書 | "社会問題をわかりやすく整理してわかりやすく伝える"ことを生業とする著者・池上彰氏ならではのメソッドが語られた一冊。煩雑で難しいWebマーケティングのことを「わかりやすく」伝えることは、この業界で必須のスキル。これを身につければ、他人に理解してもらいやすくなるだけでなく自分自身の理解力も上がることだろう。 |
| ロジカルシンキング・思考法 | ロジカル・シンキング | 照屋 華子 | 東洋経済新報社 | 言わずと知れた、ロジカルシンキングの名著。もはや古典といってもいいくらい長い間親しまれてきた本。MECE/論理展開といったロジカルシンキングの基礎を学ぶことができる。シッカリしたコミュニケーションのために必須のスキル。 |
| | イシューから始めよ | 安宅和人 | 英治出版 | 知的生産の現場において最も重要なことは「イシュー」をつかむことだ！というのが本書の主題。正しく数字を扱えて、ロジカルシンキングができてさらにクリエイティブな発想ができて、論点設定が上手いかわりに仕事はまともな方向に進まなくなってしまう。課題を解決するには、何が問題=イシューなのかを正しく捉えて鍵となる論点を設定するところから始めることが重要。 |
| | 論理思考は万能ではない | 松丘 啓司 | ファーストプレス | ロジカルシンキングというのは情報をわかりやすく整理するための技法であって、新しい何かを創造するものでもなければ抜け漏れなく情報を引き出せるわけでもない、ということが説かれた本。"論理的に考えて終わり"ではなく、その先にある意思決定の方法論が示されている。 |
| 仕事術・勉強術 | 人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか | 森 博嗣 | 新潮新書 | 物事を抽象化して捉える方法を示した本。物事の本質をシッカリとらえて応用するには、抽象化するという考え方がものすごく重要。この抽象化という思考回路ができれば、既存の事例と類似する事例に出会った場合に機転を利かせて応用することができるようになる。 |
| | はじめてのGTD ストレスフリーの整理術 | デビッド アレン | 二見書房 | GTD (タスクを洗い出し、整理し、実行したら振り返る) というタスク整理の概念を一般に広めた名著。GTDを繰り返すことでお仕事というのは思っている以上にスリッカリするし、納期に追われる仕事のストレスからも解放される。焦っているとなかなかできない「タスク整理」をスムーズに行うコツがわかる本。 |
| | レバレッジ時間術 | 本田 直之 | 幻冬舎新書 | 誰にでも平等に与えられる資源である"時間"をどうやって運用したら一番効率よく日々を過ごせるのかを考えさせられる本。「時間を投資する」という考え方が示されている。時間を"消費"するのではなく"投資"することで時間を生み出すことができ、その時間を使ってスキルアップする...というサイクルを回すことができれば継続的に力をつけていくことができるようになる。 |
| | サラリーマンの悩みの殆どには既に学問的な答えが出ている | 西内啓 | マイナビ新書 | 悩みを解決しようと現場で試行錯誤することも大切だけれど、"今悩んでいるその問題は多くの実証研究を基にある程度の答えが出ているかもしれない"ということは頭の隅に置いておくことよ。お仕事をアカデミズムは正反対のベクトルを向いているようで、実は世の中の課題を解決するという意味で同じ方向を向いている。 |
| 統計分析 | 定量分析 実践講座 | 福津 美弘 | ファーストプレス | こんな簡単な計算で重要な経営判断をするための分析ができるなんて！統計や数学ってこうやって使うのか、と目からうろこの一冊。この本を完全にマスターすれば、国内SEMプランナーの上位1%以内に入るとは間違いのない！それくらいパワーのある教科書。ノートとペンと、エクセルを用意して、手を動かしながら勉強しよう！ |
| | 不確実性分析 実践講座 | 福津 美弘 | ファーストプレス | 市場価値の高い仕事の特徴の一つに、「不確実性が高い」という要素がある。誰がやっても手順通りやれば確実にうまくいく仕事の価値は安いですが、同じ人がやっても環境によってうまくいかないことがあるような確実性が低い仕事は、多くの場合市場価値が高い。だからといって、不確実なことは何かをやることで突然「確実」なものになったりはしない。多くの不確実性は取り除くことはできないけれど、うまく付き合っていく必要がある。そのために、どこにどんな不確実性が隠れていて、どうやってその不確実性を理解すべきかを定量的に知っておくことはとても重要なスキル。定量分析実践講座と同様にノートとペンとエクセルを使って勉強しよう！ |